



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

平成31年1月8日

第11号

明けましておめでとうございます

部長代理 勝木 茂

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

子どもたちをはじめ、保護者の皆様にとって、健康で安全なよりよい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、初等部生は年末年始をどのように過ごしたのでしょうか。これまでの学習の復習や読書、書初め、自由研究・・・6年生の中には、中学入試に向けてのラストスパートに取り組んだ人もいたことでしょうか、いずれも自分なりに一生懸命だったことと思います。

また、初等部生の中にはお正月を祖父母や親戚の方と一緒に過ごされた方もいらっしゃるかと思います。

わたしが小学生の頃、それはもう半世紀も前のことです。今とは状況はかなり違いますが、お正月にはお正月ならではの遊びをよくやりました。小学生の頃わたしは、雪がよく降る地方で過ごしましたので、凧揚げや羽根つきはあまりやりませんでした。雪合戦やそり遊びもしましたが、やはり室内で過ごすことが多かった気がします。“すごろく” “コマ” “福笑い”などもやりましたが、いちばん楽しかったのは“百人一首”です。

小学生の頃は、同居していた祖母が、よく読札を詠んでくれました。「五・七・五・七・七」のリズムは内容が分からなくても心地よく、また、父や母やに負けまいと何度も繰り返し遊んだ記憶があります。地域に公民館があり、冬休み期間中の夜（20時くらいでしょうか）“百人一首”練習会と大会がありました。地域のお年寄りの方が教えてくれるのですが、マナーや挨拶なども結構厳しく指導された気がします。毎回、練習会の最後におばあさんたちが作ってくれた「うどん」を夜食として食べさせてくれるのですが、これが美味しかったですね。心も体もあったまって、雪道を家まで帰りました。

初等部生や保護者の皆様の中にも、“百人一首”が好きな方がいらっしゃると思います。かるた遊びとしても、和歌を味わうにしても

お正月には（お正月でなくても）ちょうどよいかと思います。わたしの好きな歌は、「天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ 乙女の姿 しばしとどめむ」僧正遍照 です。ダイナミックな姿が目には浮かびませんか。



本日、第3学期始業式を実施いたしました。式では、昨年同様に「初等部のみんなが互いに“思いやり”をもって仲良くしていこう」という話をしました。

初等部での学校生活は、当たり前ですが集団生活です。時には、友だちとぶつかってしまうこともあると思います。友だちと折り合いをつけ一緒によりよい初等部での学校生活をつくっていくことはなかなか大変なことです。自分のことだけを考えて、自分をいつも優先させているだけでは、友だちと折り合いをつけることはなかなか上手いきません。時にはがまんすることが必要になることもあります。相手の置かれている立場に立って、その人の心の中をおしはかり、どうしたらよいのかをいっしょに考えたり、共感したりしながら共に生活することが肝要です。そしてそのことが“思いやり”でもあると思います。また、このことは本学が最も大切にしている建学の精神「感謝と奉仕に生きる人づくり」にも通じることです。

本年も、建学の精神を根本とし、日々の教育活動を充実させていきます。これまで同様、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。